

～臨床情報・検体の研究利用に関するお知らせ～

『研究課題名 閉経後の子宮頸部細胞診標本中に見られる異型扁平上皮細胞集塊の検討』

研究機関名 東邦大学医療センター大橋病院

研究責任者 病理部 職位・氏名 主任・湯浅瑛介

【研究の目的】

東邦大学医療センター大橋病院病理部では、閉経後の子宮頸部細胞診標本中に見られる扁平上皮細胞集塊を観察し、①萎縮上皮と異型性の形態学的差異、②軽度異形成、中等度異形成、高度異形成の形態学的差異を明らかにすることを目的として本研究を計画しました。この研究で得られる成果によって診断精度の向上の一助となり、身体的・精神的負担の軽減に繋がる可能性があります。

【研究対象および方法】

この研究は、東邦大学医療センター大橋病院倫理委員会の承認を得て実施するものです。対象者：2016年1月～2022年7月までに東邦大学医療センター大橋病院産婦人科において、子宮頸部細胞診と組織診を受けられた50歳以上で閉経されている方で、細胞診と組織診が施行され、その診断結果が一致、かつ細胞診標本で萎縮性変化を認めた、約60名を対象とします。

細胞診：病気の以上の疑いがある場所からブラシなどで細胞を採取し、顕微鏡で観察、その形態から細胞の良性、悪性、腫瘍名などを推定する検査法。

組織診：病変の一部（組織）を鉗子などで削りとって顕微鏡で調べる検査法。多くの場合、病変の良性、悪性、腫瘍名などが確定する確定診断となります。

方法：当院病理部に保管されている子宮頸部細胞診標本に対して再評価を行い、標本中に見られる、萎縮上皮、軽度異形成、中等度異形成、高度異形成細胞の細胞集塊（細胞同士がくっついて集まって見られる場所）を観察し、集塊の面積（その集まりの全体の面積）、集塊の細胞密度（集塊内の同一平面上に見られる細胞の核同士の距離）、個々の細胞の核の大きさについて計測を行い、各群間での差異を検討します。

【研究に用いられる試料・情報】

試料：子宮頸部細胞診標本

情報：年齢、閉経の有無、子宮頸部細胞診標本に見られる集塊の写真

【研究組織】

代表施設名：東邦大学医療センター大橋病院_研究代表技師：湯浅瑛介 役職：主任

【個人情報について】

研究に利用する情報は、患者様のお名前、住所など、個人を特定できる個人情報は削除して管理します。また、今回の研究で得られた成果を、医学的な専門学会や専門雑誌等で報告することがありますが、個人を特定できるような情報を利用することはありません。

本研究に関してご質問のある方、診療情報等を研究に利用することを承諾されない方は、下記までご連絡下さい。その場合でも、患者様に不利益になることはありません。

【連絡先および担当者】

東邦大学医療センター大橋病院 病理部

職位・氏名 主任・湯浅瑛介

電話 03-3468-1251 内線 3430